



内間珠愛さん（3年生）

実際にガイドをしてみて、練習のときよりも伝えたいことがうまく伝わらなかったり、言い方が悪いところがありました。なので、ここはなにが起こった場所なのかをしっかりと自分の言葉に伝えていけるように、もう一度勉強をし直したり、先輩ガイドさんのガイドをみたりして、最初にガイドしたときよりも、ちゃんと伝えられるようにしていきたいです。

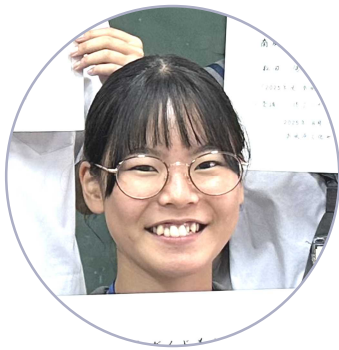
また、先輩ガイドさんからもらったアドバイスを参考にし、戦争の恐ろしさや、今過ごしている日々のありがたさ、幸せさをしっかりと伝えることができるガイドになります。

平和の大切さ、命の尊さを伝えることは、ただ戦地の様子や戦争体験者の方々の証言を話すだけでは伝わりにくいです。そこで実際に壕の中に入り、戦争当時の様子を想像してもらうということはとても大切なことだと思います。

私は、ガイドの役割はここはどういった場所なのか、どんな事があったのかを説明して、当時の様子を見学者の方に鮮明に想像してもらうお手伝いをする事だと考えています。だから私は「どの年代にも分かりやすいガイドを」を目標に日々勉強して、高校生になったらすぐにでもガイドができるように頑張ります。



北村夢乃さん（3年生）



玉城佳奈美さん（3年生）

他のガイドの方の技術も自分のものにできるようにして、目指しているガイドのやり方ができないからガイドを諦めるのではなく、できるようになるためにガイドを積極的におこなっていきたいです。

そして、戦争を経験していない、戦争とは何かなどを知らない世代にも戦争の悲惨さ、当時の人の気持ち、戦争を体験した方の気持ちが来ていただいた方にしっかりと伝えることができるガイドになりたいです。

ガイドの資格を得て私は、戦争についてよく知らない人にも戦争に興味を持ってもらえたり、黄金森で起こったことなどをわかりやすく伝える事のできるガイドになりたいです。

そのためには、ガイドの栞（シナリオ）を覚えたり、聞き取りやすい声で相手に話したり、難しい言葉などの意味を理解していきたいです。

また、安全にも気を付けて、自分が案内しているお客さんを安全に壕の中などをガイドしていきたいです。



仲座心海さん（3年生）



仲間彩音さん（3年生）

壕に入って追体験をすることは沖縄戦をより実感できると思います。実際にガイドをしてみると自分の言葉で伝えられなかったり、質問に答えられなかったりなど、沖縄戦を実感してもらえなかったと思いました。

戦争の悲惨さや平和の尊さをお客さんに伝えるために、もっと沖縄戦について学んだり、ガイドを何回も実践したりして成長していきたいです。

そして、壕の中で起きた事が相手の心に残るように、証言を伝え、相手にどんなことが起きたのか考えてもらうガイドをしたいです。

実際にガイドをしてみて、勉強はしてきたはずだけど、いざガイドをしてみると、伝えたいことが伝わってなかったり、伝えることを忘れていたり、お客さんへの配慮が足りなかったりしていたことが多くありました。ガイドをするうえで大切なことがまだまだできていないので、一緒にガイド講座を受けてきた委員会の仲間と一緒にお互いアドバイスをし合ったり、先輩ガイドさんたちの意見を聞いたりして、より正確に印象に残るように伝わるようにしていきたいと思います。

そして、講座が終わっても沖縄戦や陸軍病院のことをもっと勉強していきたいと思います。



比嘉愛未さん（3年生）



松田陽菜さん（3年生）

私は、ガイドとしてまだまだですが、これから先輩のガイドの方々のいいところを参考にしたり、仲間たちと協力して20号壕に来てくれた方に沖縄戦や20号壕で起こったことを自分の言葉で工夫して説明し、心に残るようなガイドを目指していきたいです。そのためにガイドの内容をまた振り返って勉強したり、前のガイドの反省を行っていこうと思います。

そして、初めの私みたいに沖縄戦、20号壕についてあまり知らないというひとはまだたくさんいると思います。

その人たちにも昔沖縄ではこんな悲惨なことがおきたんだよ、

この記憶を絶やさないために私たちが引きつがないといけいないんだよということ伝えていけるよう頑張りたいです。

沖縄戦の記憶は、時代とともに風化していつています。だからこそ、私達のような若い世代が、20号壕のような戦争遺跡と一緒に伝えていくことが大切だと思います。

20号壕はただの壕ではありません。私達の言葉にして、ただの戦争遺跡としてではなく、平和の大切さを実感できる場として案内し、記憶を未来へと繋ぎたいです。



真喜志夢実さん（2年生）